

小学校の走り高跳びにおける到達度 (身に付けるべきミニマム) に関する研究

A study of minimum in the High Jump of elementary school

池田 延行*, 田原 淳子*, 岡田 雅次*, 今野 賛**

Nobuyuki IKEDA*, Junko TAHARA*, Masaji OKADA* and Tasuku KONNO**

1. 研究の目的

児童・生徒の体力の長期的低下傾向や運動への2極化への対応を意図した学習指導要領の改訂が平成19年度中に行われる予定である。

また、この学習指導要領改訂では、運動やスポーツに親しむ資質・能力の育成に向けて、発達段階に応じて身に付けるべき運動技能や知識の具体的な内容を明確に示すことも求められている。いわゆる「運動におけるミニマム議論」である。

そこで、本研究では小学校の陸上運動教材の中の走り高跳びに焦点を当て、具体的な授業実践を踏まえた記録測定、授業分析やバイオメカニカルな分析等を通して、小学校終了段階での「走り高跳びのミニマム (到達可能な記録、動きなど)」を明らかにしようとするものである。特に、今回の研究では、授業での走り高跳びの記録の変化と形成的授業評価の変化に着目した。

筆者らは、過去に、陸上運動の特性に触れる観点から、小学校5年生から走り高跳びの学習の適時性を指摘する研究¹⁾を発表してきた。今回の研究は、その学習の適時性の結果を踏まえながら、小学校段階での走り高跳びの授業での「ミニマム提示」を検討するものである。

2. 研究の計画及び方法

(1) 研究の計画

本研究は、以下のような計画によって行われた。

①対象児童

- ・川崎市立O小学校5年生・6年生
- ・5年生2クラス (男子30名、女子22名)
- ・6年生2クラス (男子40名、女子38名)

②授業実施時期

- ・平成19年9月～10月

③実施授業回数

- ・5年生：2回+授業前後のビデオ撮影
- ・6年生：4回+授業前後のビデオ撮影

(2) 研究の方法

①記録測定

5年生及び6年生児童の走り高跳びの記録を測定した。

- ・5年生：2回
- ・6年生：3回

②アンケート調査

5年生及び6年生児童に授業時間ごとに形成的授業評価に関するアンケート用紙を配布して、回答を得た。

* 国士館大学体育学部 (Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

** 国士館大学大学院スポーツ・システム研究科助手 (Assistant of Graduate School of Sport System, Kokushikan University)

3. 結果及び考察

(1) 走り高跳び記録の変化

① 5年生の結果

図表1は、5年生の2回の記録測定結果を男女別に示し、加えて男女別の「目標記録」²⁾との比較も示したものである。

5年生は授業を通して2回の記録測定のみであり、記録の目立った変化は見られなかった。男子は女子に比べてやや記録が高い傾向にあった。また、「目標記録」との比較では男子、女子ともに上回っていた。

② 6年生の結果

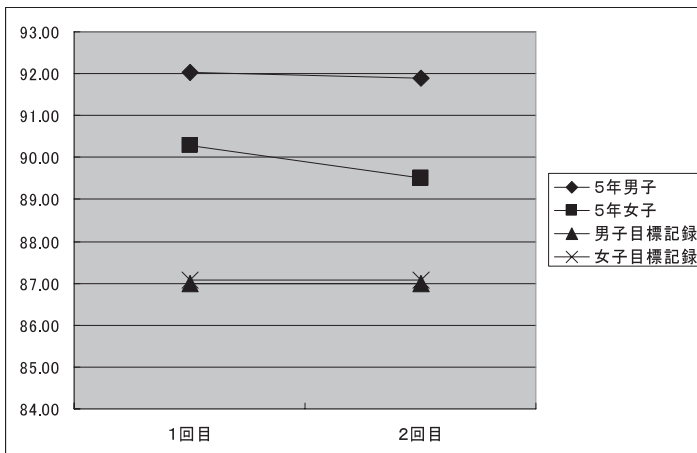
図表2は、6年生の3回の記録測定結果を男女別に示し、加えて男女別の「目標記録」との比較も示したものである。

6年生は授業を通して3回の記録測定を行ったが、男子は測定ごとに記録が向上していった。女子は2回目が一番高い記録であったが、3回目も1回目を上回ることができた。また、「目標記録」との比較でも、男子では約7cm、女子では約1.2cm上回ることができた。6年生では男子の記録の伸びが目立っていた。

③ 5年生と6年生の比較

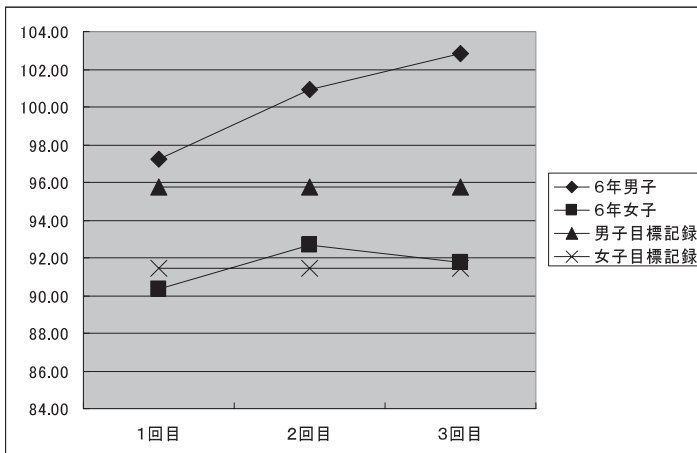
5年生と6年生の比較では、男子は6年生の方が約10cm、女子では6年生の方が2.4cm高い記録を示している。男女の比較では、男子の方が5年生と6年生の差が大きいことが示された。

	1回目	2回目
5年男子	92.04	91.90
5年女子	90.28	89.50
男子目標記録	87.00	87.00
女子目標記録	87.07	87.07



図表1 5年生の記録の変化 (cm)

	1回目	2回目	3回目
6年男子	97.23	100.90	102.86
6年女子	90.31	92.66	91.76
男子目標記録	95.78	95.78	95.78
女子目標記録	91.46	91.46	91.46



図表2 6年生の記録の変化 (cm)

(2) アンケート調査の結果

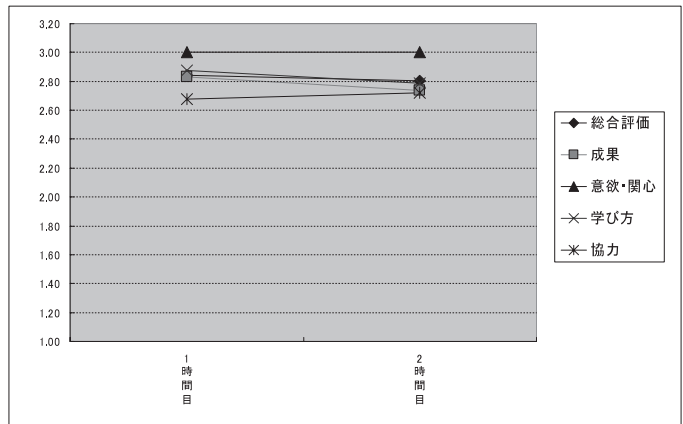
今回の授業では、授業時間ごとに「形成的授業評価アンケート用紙」³⁾を配布して児童に回答を求めた。アンケート項目は9項目である。

① 5年生の結果

図表3は5年生の「形成的授業評価」の変化の様子を示したものであり、クラスごとにまとめている。

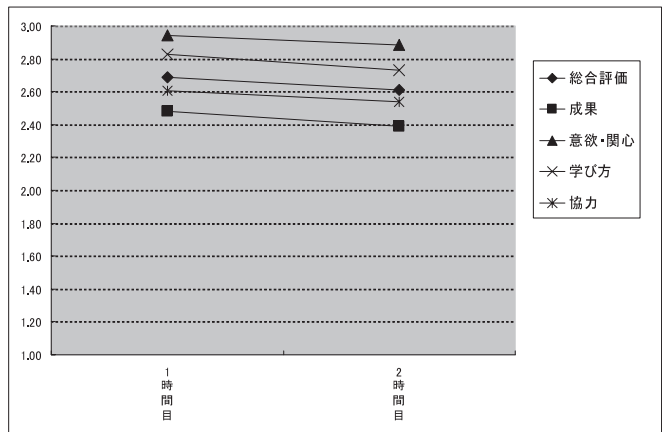
形成的授業評価一覧表 5年1組

次元(項目)		1時間目	2時間目
成果	平均	2.83	2.74
	評価	5	5
意欲・関心	平均	3.00	3.00
	評価	5	5
学び方	平均	2.88	2.79
	評価	5	4
協力	平均	2.68	2.72
	評価	4	4
成果	1. 感動の体験	平均 2.75	2.83
	評価	5	5
	平均	2.80	2.67
意・関	2. 技能の伸び	評価	4
	平均	2.95	2.92
	評価	5	5
学・方	3. 新しい発見	平均	3.00
	評価	5	5
	平均	3.00	3.00
協・力	4. 精一杯の運動	評価	5
	平均	3.00	3.00
	評価	5	5
学・方	5. 楽しさ体験	平均	2.80
	評価	5	4
	平均	2.95	2.88
協・力	6. 自主的学習	評価	5
	平均	2.85	2.78
	評価	4	4
学・方	7. めあてをもった学習	平均	2.50
	評価	3	4
	平均	2.84	2.80
協・力	8. 仲良く学習	評価	4
	平均	2.50	2.67
	評価	3	4
学・方	9. 能力的学習	平均	2.84
	評価	5	5
	平均	2.84	2.80
総合評価		評価	5



形成的授業評価一覧表 5年2組

次元(項目)		1時間目	2時間目
成果	平均	2.48	2.39
	評価	4	3
意欲・関心	平均	2.94	2.88
	評価	4	4
学び方	平均	2.83	2.73
	評価	5	4
協力	平均	2.61	2.54
	評価	3	3
成果	1. 感動の体験	平均	2.50
	評価	4	4
	平均	2.36	2.16
意・関	2. 技能の伸び	評価	3
	平均	2.58	2.85
	評価	3	4
学・方	3. 新しい発見	平均	2.88
	評価	4	4
	平均	3.00	2.96
協・力	4. 精一杯の運動	評価	4
	平均	3.00	2.96
	評価	5	4
学・方	5. 楽しさ体験	平均	2.77
	評価	5	5
	平均	2.88	2.69
協・力	6. 自主的学習	評価	5
	平均	2.88	2.69
	評価	4	4
学・方	7. めあてをもった学習	平均	2.81
	評価	4	3
	平均	2.40	2.42
協・力	8. 仲良く学習	評価	4
	平均	2.40	2.42
	評価	3	3
学・方	9. 能力的学習	平均	2.69
	評価	3	3
	平均	2.69	2.61
総合評価		評価	4



図表3 5年生の形成的授業評価の変化

5年1組では、総合評価が5（5段階評価）であり、児童が授業内容を高く評価していることが示されている。特に、「意欲・関心」の項目への評価が高い。一方、5年2組では、総合評価が4であった。また、評価項目では5年1組と同様に「意欲・関心」の項目の得点が高かった。

②6年生の結果

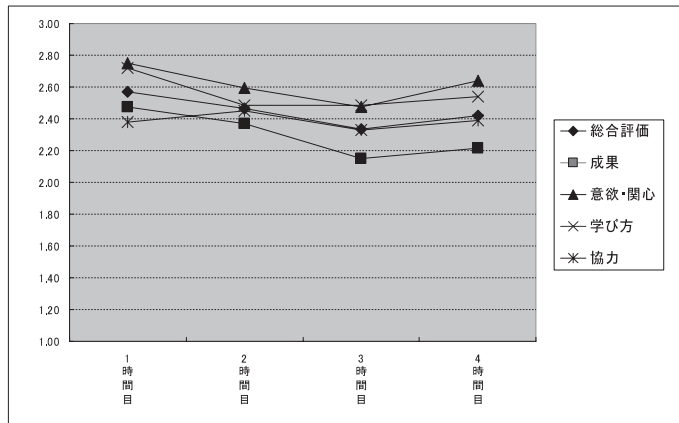
図表4は6年生の「形成的授業評価」の授業時間ごとの変化の様子を示したものであり、クラスごとにまとめている。

6年1組では、総合評価が3もしくは2であった。また、項目では「意欲・関心」と「学び方」に高い得点が見られた。授業時間ごとの変化では、1回目の評価が最も高く、2回目と3回目はやや低くなった。そして、最後の4回目でまた評価が高くなった。一方、6年2組では、総合評価は4もしくは3であり、1組よりも高かった。また、項目では1組と同様に「意欲・関心」と「学び方」が高い値を示した。授業時間ごとの変化では、2組は大きな変化が見られなかったが、1回目の高い評価は1組と同様であったが、3回目の評価は1組とは異なり高い値を示した。全体としては、2組の授業への評価が高かった。

③5年生と6年生の比較

「形成的授業評価」での学年の比較では、授業回数は少ないが5年生の方が6年生と比べて高い値を示した。特に、5年1組の高い評価が目立っている。この原因の1つは、学年によるクラスの人数に差があることが考えられる。5年生は1クラス26名であるが、6年生は1クラス39名であった。走り高跳びの記録変化はクラスの数には影響が少ないと思われるが、「形成的授業評価」

次元(項目)		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
成果	平均	2.48	2.37	2.15	2.21
	評価	4	3	2	3
意欲・関心	平均	2.75	2.60	2.47	2.64
	評価	3	3	2	3
学び方	平均	2.72	2.49	2.49	2.54
	評価	4	3	3	3
協力	平均	2.38	2.45	2.33	2.39
	評価	3	3	2	3
成果	1. 感動の体験	平均 2.50	2.14	2.18	2.11
	評価	4	3	3	3
意欲・関心	2. 技能の伸び	平均 2.53	2.44	2.13	2.25
	評価	3	3	2	3
学び方	3. 新しい発見	平均 2.40	2.53	2.14	2.28
	評価	3	3	2	2
協力	4. 精一杯の運動	平均 2.75	2.58	2.50	2.69
	評価	3	3	2	3
成果	5. 楽しさ体験	平均 2.75	2.61	2.45	2.58
	評価	3	3	2	2
意欲・関心	6. 自主的学習	平均 2.64	2.51	2.50	2.56
	評価	4	3	3	4
学び方	7. めあてをもった学習	平均 2.81	2.46	2.47	2.53
	評価	4	3	3	3
協力	8. 仲良く学習	平均 2.67	2.64	2.50	2.47
	評価	3	3	3	3
成果	9. 協力的学習	平均 2.09	2.26	2.16	2.31
	評価	2	3	2	3
総合評価	平均	2.57	2.46	2.34	2.42
	評価	3	3	2	3



では少人数クラスの方が一人一人の児童への個別指導や言葉かけなども行いやすいことから、授業評価への差が見られたのではないと思われる。

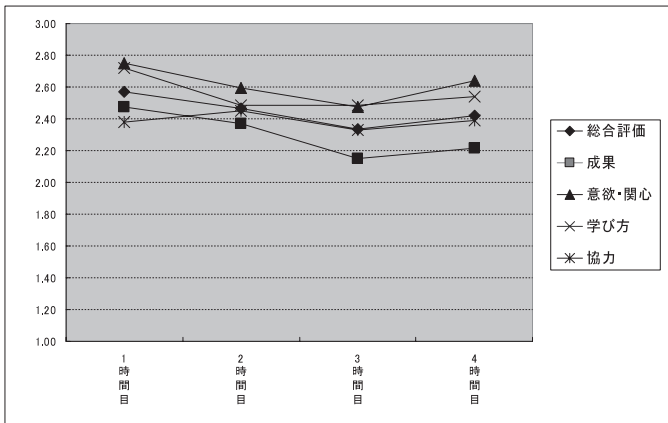
4. 結果のまとめ

今回の走り高跳び授業の分析は、以下のようにとまとめることができる。

- ①授業を通しての記録の伸びは授業実施の回数にも影響されようが、6年生では授業後の記録の伸びが期待できる。特に、男子には記録

形成的授業評価一覧表 6年1組

次示(項目)		1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
成果	平均	2.48	2.37	2.15	2.21
	評価	4	3	2	3
意欲・関心	平均	2.75	2.60	2.47	2.64
	評価	3	3	2	3
学び方	平均	2.72	2.49	2.49	2.54
	評価	4	3	3	3
協力	平均	2.38	2.45	2.33	2.39
	評価	3	3	2	3
成 果	1. 感動の体験	平均 2.50	2.14	2.18	2.11
	評価	4	3	3	3
意 関	2. 技能の伸び	平均 2.53	2.44	2.13	2.25
	評価	3	3	2	3
学 び 方	3. 新しい発見	平均 2.40	2.53	2.14	2.28
	評価	3	3	2	2
協 力	4. 精一杯の運動	平均 2.75	2.58	2.50	2.69
	評価	3	3	2	3
成 果	5. 楽しさ体験	平均 2.75	2.61	2.45	2.58
	評価	3	3	2	2
学 び 方	6. 自主的学習	平均 2.64	2.51	2.50	2.56
	評価	4	3	3	4
協 力	7. めあてをもちた学習	平均 2.81	2.46	2.47	2.53
	評価	4	3	3	3
成 果	8. 仲良く学習	平均 2.67	2.64	2.50	2.47
	評価	3	3	3	3
学 び 方	9. 協力的学習	平均 2.09	2.26	2.16	2.31
	評価	2	3	2	3
協 力	総合評価	平均 2.57	2.46	2.34	2.42
	評価	3	3	2	3



図表4 6年生の形成的授業評価の変化

の伸びの期待が大きい。

②形成的授業評価では全体的に高い評価結果が得られているが、クラスの人数などの要因も評価結果に影響があるものと思われる。

これらの結果から、6年生になると授業を通しての記録の伸びも期待でき、授業前に設定した男女の目標記録を上回る可能性が高いことが明らかになり、「記録が伸びること」と「目標記録が達成される」という2つの到達（ミニマム）の可能性が示された。

また、授業評価はクラス人数などにも影響され

ることから、今後はクラス人数をも考慮した指導内容、指導方法などの改善を検討する必要がある。

参考・引用文献

- 1) 池田延行「小学校における走り高跳び学習の適時性に関する研究」、スポーツ教育学研究第12巻第2号、1992年
- 2) 池田らが作成した「個に応じた目標記録（走り高跳びのノモグラム）」の平均値を「目標記録」としている。
- 3) 高橋健夫編著「体育授業を観察評価する」、明和出版、2003年、を参考にして作成した。